

40歳未満で〈乳がん検診〉を希望される方へ

近年、乳がん検診の重要性が唱えられています。早期治療のためには、まず早期発見が大切です。しかし、乳がん検診について、まだ十分な理解が得られていない印象が拭えません。下記の内容もご理解していただき、今後の乳がん検診をお受けください。

〈乳がん検診の適応年齢〉 40歳以上が推奨されています

- ・ 40歳未満で乳腺が発達している方は、X線の透過が悪くなり、腫瘍を見つけにくい場合があります。40歳代でも、腫瘍を見つけやすくする為に、乳房を2方向で撮影することが推奨されています。参考にしてください。

* X線被ばくの問題 *

1回の被ばく量 マンモグラフィ1回の被ばく量は、「東京―ニューヨーク間の旅客機搭乗時に浴びる自然界の放射線被ばくと同程度で心配しすぎることはない」と表現されるように、1回の被ばくだけでは、人体への影響はわずかであり、心配には及びません。

繰り返す被ばく マンモグラフィも回を重ねれば、身体に害を及ぼします。現在のデータでは、30歳から毎年40年間マンモグラフィを撮影することは、乳がんでの死亡率減少が、X線被ばくの害を上回るというデータが出ています。逆に、それ以上の被ばくでは、メリットが大きく上回りません。

これと平均寿命などを御考慮いただき、今後の乳がん検診にお役立て下さい。

〈乳がん検診の間隔〉 2年に1回が推奨されている

- ・ 無症状の方が頻繁にマンモグラフィを撮影することは、被ばく量を増やすだけとなります。
- ・ 3年以上の間隔では、せっかく発見しても、早期の段階での発見を逃す可能性が上がります。

現在のところ、40歳未満の方を対象とした乳がん検診は確立しておらず、研究段階です。乳房超音波（エコー）検査も良い検査なのですが、検診として死亡率を減少させられるか研究中です。

しかし、「若年乳がん」がある以上は、油断することはできません。そこで・・・

- 自己検診（乳房触診）をひと月に1回する。
ふだんのご自分の乳房の状態を知らないと、異常がわかりにくくなります。
- しこりなど、明らかな自覚症状があれば、外科（乳腺外科）を受診してください。
- 判断に迷い心配な方は、検診をお受けください。
マンモグラフィ（2方向） + 乳房視触診
または
乳房超音波 + 乳房視触診